

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名	道路改築		路河川名等	(主)松本環状高家線		
事業毎の通番	1	市町村名	松本市	箇所名(ふりがな)	神林～和田(かんばやし～わだ)	
事業目的	(主)松本環状高家線は、松本市から安曇野市に至る主要な幹線道路であり、松本地域の外環状道路の一部を構成する重要な路線である。 当事業区間は、松本空港や松本平広域公園、また災害時には物流の拠点ともなる臨空工業団地へのアクセス道路であり、交通が集中し渋滞が発生しており、交通事故も多発している。 このため、道路を拡幅し、円滑で安全な交通を確保するとともに、災害時における物流拠点のアクセス機能の向上を図りたい。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 生活を支える地域交通の確保(生活の基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法		
関連する事業、計画等	中部縦貫自動車道(松本波田道路)、平成10年都市計画決定(3.3.39 都市環状西線) 松本都市計画区域マスタープラン、松本市都市計画マスタープラン、松本市交通総合戦略					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量: 18,000台/日					
着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	8年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2030年度(令和12年度)	費用対効果	5.0		国庫 364,500 一般財源 40,500	
全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=1.2km, W=14.0(28.0)m		900,000	495,000	364,500 40,500	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	交通渋滞の解消 走行時間の短縮、走行経費・交通事故の減少 災害に強い道路ネットワーク				
	間接的効果(定量的・定性的)	物流の円滑化 観光の活性化 地域間交流の促進				
評価の視点	必要性	○計画交通量: 18,000台/日 ○交通結節点・主要施設アクセス: 松本空港への1次アクセス道路 ○観光振興・物流・地域の活性化: 重要物流道路、都市計画道路(3.3.39 都市環状西線)			評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合: 信州みちビジョン ○緊急輸送路の路線指定: 緊急輸送路(指定予定)、重要物流道路 ○地域指定: 積雪地域			評価	A
	効率性	○費用便益費(B/C): 5.0 ○事業期間: 8年間 ○工法等比較検討: 橋梁形式等の比較検討予定			評価	A
	緊急性	○現道の危険性: 交通事故の発生 計50件(R1~R3)内人身7件 ○代替道路: 臨空工業団地、松本空港等に物流車両、大型車両が通行可能な唯一の路線 ○道路環境改善: 歩行者・自転車の安全確保 ○現況の車道幅員、半径、勾配: 交通量に対して車道幅員が不足しており、2車線から4車線への拡幅が必要			評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有: 都市計画決定済であり、関係者以外にも周知されている ○地域の取り組み: 芳川地区、神林地区、和田地区町会連合会から要望あり ○地域の合意形成: 地域の合意形成が図られている ○住民との協働: 今後検討 ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック: 再評価13-8(地元調整)			評価	A
	所管課の意見	松本地域の外環状道路の一部を構成する重要な路線であり、円滑で安全な交通の確保、および災害時における物流拠点のアクセス機能の向上を図る必要があることから、事業着手が妥当と判断する。			採択状況	総合評価
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

位置図

状況写真

平面図

標準横断面図

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	(主)松本環状高家線は松本空港及び松本平広域公園、臨空工業団地へのアクセス道路である。沿線の松本平広域公園では平成5年に「信州博覧会」、平成13年には総合競技場「アルウィン」がオープン、平成31年には「全国都市緑化フェア:信州花フェスタ2019」が開催され、令和10年には国体の開催が予定されている。また、平成6年には松本空港がジェット化され、当該路線の交通量が増加する中、平成31年には重要物流道路として指定がなされ、松本地域の外環状道路として、早期の円滑な交通確保及び通行車両や通行者の安全確保が求められている。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成10年に4車線の都市計画決定がされており、渋滞も著しいことから早期の事業化が求められている。毎年、芳川地区、神林地区、和田地区町会連合会から松本建設事務所長に整備要望が出されている。空港関連事業として副知事へ要望がある。
③事業説明等の経緯	令和3年9月、12月に事業説明を実施し、事業に対する了解を得ている。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	中部縦貫自動車道(松本波田道路)、平成10年都市計画決定(3.3.39 都市環状西線) 松本都市計画区域マスタープラン、松本市都市計画マスタープラン、松本市交通総合戦略
⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮	渋滞解消により、渋滞時の二酸化炭素(CO2)の発生量を削減する。本事業区間の周辺は農地が多く、また近隣に松本平広域公園があるため、周辺の環境に配慮した計画を検討する。
⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	本事業により交通の円滑化と歩行者の保護が図られ、地域間交流ネットワークにも寄与するものと期待される。
⑦その他	

事後・再評価からのフィードバック

再評価: 13-8(地元調整)	事業代表地点の緯度経度	北緯: N 36° 10' 56.7"
早い段階から地元意向を調整していく。		東経: E 137° 54' 15.4"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名	道路改築		路河川名等	(一)内川嬢捨停車場線			
事業毎の通番	2	市町村名	千曲市	箇所名(ふりがな)	内川(うちかわ)		
事業目的	(一)内川嬢捨停車場線は、国道18号と長野自動車道嬢捨SICを東西に結ぶ幹線道路であるとともに、しなの鉄道千曲駅へのアクセス道路となる重要な生活道路である。 当事業区間は五加小学校の通学路であり、また駅利用者の自転車通行も多いが、幅員狭小で見通しが悪く歩道も未整備なため危険な状況である。また、震災時には地域の避難路となるが、住宅密集地域であり住宅倒壊等による通行止めリスクが高い区間となっている。このため、道路拡幅により歩道及び自転車通行帯を整備し、通学児童をはじめ道路利用者の安全性の向上を図るとともに、震災時の通行止めリスクを解消したい。						
事業概要	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け 3-8 生活を支える地域交通の確保(生活の基盤となる道路網の整備)	事業実施の根拠法令等	道路法				
関連する事業、計画等	千曲市都市計画マスタープラン 千曲市通学路交通安全プログラム						
保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:2,900台/日						
着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	8年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
完成年度(見込み)	2030年度(令和12年度)	費用対効果	2.0		国庫	その他	
全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=430m、W=6.0(14.0)m			800,000	400,000	360,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮、走行経費の減少 歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少 災害に強い道路ネットワーク					
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進 しなの鉄道千曲駅の利便性向上					
評価の視点	必要性	○計画交通量：2,900台/日 ○交通結節点・主要施設アクセス：しなの鉄道千曲駅へのアクセス道路、千曲市路線バス(五加戸倉線) ○観光振興・物流・地域の活性化：嬢捨の棚田へのアクセス道路				評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合：千曲市都市計画マスタープラン ○緊急輸送路の路線指定：内川公民館への避難経路となる路線 ○地域指定：長野地域連携中枢都市圏(千曲市)				評価	A
	効率性	○費用便益費(B/C)：2.0 ○事業期間：8年間 ○工法等比較検討：ルート案等について比較検討あり				評価	A
	緊急性	○現道の危険性：令和3年度通学路緊急合同点検箇所 ○代替道路：代替道路があるが安全性が低い(代替道路で計39件(R1~R03)事故発生) ○道路環境改善：千曲市通学路交通安全プログラム 要対策箇所 ○現況の車道幅員、半径、勾配：現況車道幅員3.0m				評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有：関係者以外にも周知(地元区広報掲載) ○地域の取り組み：内川区一般県道内川嬢捨停車場線拡幅・改良促進委員会から要望あり ○地域の合意形成：事業計画について沿線地権者合意済み ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック：事後評価5-6(情報発信)				評価	A
所管課の意見	通学路および駅へのアクセス道路となる重要な路線であるが、幅員狭小、歩道未整備のため、道路拡幅により歩道及び自転車通行帯を整備し、道路利用者の安全性の向上を図る必要があることから、事業着手が妥当と判断する。			採択状況	総合評価		
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手		

事業概要説明図表	位置図		
	現況写真		
事業概要説明図表	平面図		
	標準横断面図		
事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	(一)内川嬢捨停車場線は、国道18号から長野自動車道嬢捨SIC、JR嬢捨駅を結ぶ千曲市の幹線道路であり、前後区間は道路改良済みである。本事業区間は、幅員狭小で歩道もないことから、通学路緊急合同点検を実施しており、千曲市通学路交通安全プログラムにおいて要対策箇所として位置付けられている。	
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	本事業区間は、付近に五加小学校があり、通学児童を始め歩行者が危険にさらされている状況にある。このため、歩行者、自転車利用者の安全な歩行空間の確保を要望されている。	
	③事業説明等の経緯	本事業区間は、令和4年2月に沿線住民への事業説明が完了しており、地権者の合意を得られている。	
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	千曲市都市計画マスタープランの幹線道路に位置づけられている。	
	⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮	幅員狭小区間の解消により、燃費が向上しCO2排出量低減に寄与する。また、積雪時の通行困難が解消され、生活環境の改善が期待される。	
	⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	本事業により交通の円滑化が図られ、地域間交流や観光振興等に寄与し、付近の商業施設等の活性化も期待される。	
	⑦その他		
事後・再評価からのフィードバック	事後評価:5-6(情報発信) 事業完了時のPR活動に加え、事業期間中のPR活動を行うことで、公共事業の必要性を広く継続的にアピールすることができる。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 138° 08' 16" 36 東経:E 36° 30' 26" 12

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名	道路改築		路河川名等	(国)403号			
事業毎の通番	3	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	綿内(わたうち)		
事業目的	国道403号は、新潟県新潟市から松本市に至る広域幹線道路となっており、中でも長野市区間においては緊急輸送路にも指定された重要な路線となっている。特に、当該地区は観光地である松代城址と須坂長野東I.Cをつなぐアクセス道路であると共に、工業団地に通じる幹線道路であることから交通量が多い箇所となっているが、幅員が狭く歩道が未整備となっているため、緊急輸送路として円滑な交通ならびに歩行者の安全の確保が課題となっている。 本事業では、道路改築により幅員狭小区間の解消ならびに歩道整備を行い、快適で安全な道路空間を確保することを目的とする。						
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 生活を支える地域交通の確保(生活の基盤となる道路網の整備) 4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)	事業実施の根拠法令等	道路法				
関連する事業、計画等	信州みちビジョン 長野市都市計画マスタープラン						
保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:16,000台/日						
着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	7年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
完成年度(見込み)	2029年度(令和11年度)	費用対効果	1.2	国庫	その他	県債 一般財源	
全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=180m、W=6.5(12.5)m			800,000	440,000	324,000 36,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮、走行経費の減少 交通事故の減少 災害に強い道路ネットワーク、安全な歩行空間の確保					
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進					
評価の視点	必要性	○計画交通量:16,000台/日 ○交通結節点・主要施設アクセス:須坂長野東I.Cへの2次アクセス道路、長電バス屋代須坂線 ○観光振興・物流・地域の活性化:松代城址へ通じる道路				評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0、信州みちビジョン、長野市都市計画マスタープラン ○緊急輸送路の路線指定:県緊急輸送路(2次)に路線指定 ○地域指定:観光圏整備実施計画(信越観光圏)、積雪地域指定、長野地域連携中枢都市圏				評価	A
	効率性	○費用便益費(B/C):1.2 ○事業期間:7年間 ○工法等比較検討:検討なし				評価	A
	緊急性	○現道の危険性:人身事故2件(H29~R3)、長野市通学路交通安全プログラム要対策箇所 ○代替道路:高規格道路(長野I.C~須坂長野東I.C)が遮断された際に代替機能を担う ○道路環境改善:長野市通学路交通安全・防犯対策プログラムに基づく要対策箇所 ○現況の車道幅員、半径、勾配:現況車道幅員5.0m				評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有:関係者を中心に周知 ○地域の取り組み:国道403号(中野・千曲間)整備促進期成同盟会、綿内準備開発委員会から要望あり ○地域の合意形成:事業説明会を通じ事業目的、整備手法への合意が図られている ○住民との協働:地域住民からなる国道403号線改良準備委員会と協同しながら計画検討や地元調整を実施 ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック:事後評価6-3(適切な工区設定)				評価	A
所管課の意見	広域幹線道路・緊急輸送路であり、かつ観光地・工業団地へのアクセス道路でもあり、交通量が多いため、道路改築により幅員狭小区間の解消を行い、快適で安全な道路空間を確保する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。			採択状況	総合評価		
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-	評価の決定	事業着手		

事業概要説明図表	位置図	状況写真
	標準横断面図	①幅員狭小による円滑な交通への支障 ②歩道未整備による安全な交通への支障
事業周辺環境	平面図	
	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該地区は観光地である松代城址と須坂長野東I.Cをつなぐアクセス道路であると共に、工業団地に通じる幹線道路であることから交通量が多い箇所となっているが、幅員が狭く歩道が未整備となっていることから、円滑な交通ならびに歩行者の安全の確保が課題となっている。
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	国道403号(中野・千曲間)整備促進期成同盟会から毎年、知事へ要望がある。地元地区にて整備促進に向け綿内準備開発委員会を組織しており、協同により地元調整や計画検討を実施。
	③事業説明等の経緯	H24年11月に関係地区における計画説明会を実施。H25年5月に地権者を対象とした計画説明会を実施しており、事業目的や整備手法について了解を得ている。
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	長野市都市計画マスタープランにおいて、松代・若穂地域の安全性および防災性を向上させるための手法として道路改良、歩行者空間確保が位置づけられている。
	⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮	低騒音舗装を検討し、沿線地域の生活環境確保を図る。
	⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	安全で円滑な交通を確保することで、周辺観光地(松代)の活性化や大規模商業施設や物流団地(須坂長野東I.C周辺開発)へのアクセス向上による地域経済の活性化に寄与する。
⑦その他		
事後・再評価からのフィードバック	事後評価:6-3(適切な工区設定) 沿道全体を通じて建物が連立していることから用地補償交渉に長期間を要するため、地域と調整しながら早期に効果発現できるよう工区を設定	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 36° 37' 16.9" 東経:E 138° 15' 21.9"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		道路改築		路河川名等		(一)中野飯山線		
事業毎の通番		4	市町村名	中野市	箇所名(ふりがな)	柳沢北(やなぎさわきた)		
事業概要	事業目的	(一)中野飯山線は、中野市と飯山市の中心部を結ぶ幹線道路であるとともに、沿線集落の重要な生活道路として利用されている。 本事業区間は柳沢集落内に位置し、狭隘で見通しが悪く交通事故も発生しており危険な状況である。また、震災時には地域の避難路となるが、住宅密集地域であり住宅倒壊等による通行止めリスクが高い区間となっている。 このため、バイパス整備を行うことにより、道路利用者の円滑で安全な交通を確保し、集落内の安全で安心な暮らしの向上を図るとともに、震災時の通行止めリスクを解消したい。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 生活を支える地域交通の確保(生活の基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法			
	関連する事業、計画等	中野市都市計画区域マスタープラン						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:5,800台/日						
	着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	8年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	2030年度(令和12年度)	費用対効果	1.2	国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=1.3km、W=6.0(10.75)m			850,000	467,500	344,250	38,250
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮、走行経費の減少 交通事故の減少 災害に強い道路ネットワーク						
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進 観光の活性化						
評価の視点	必要性	○計画交通量：5,800台/日 ○交通結節点・主要施設アクセス：信州中野駅、飯山赤十字病院への1次アクセス道路 ○観光振興・物流・地域の活性化：高橋まゆみ人形館、一本木公園へのアクセス道路 飯山市や中野市への観光の周遊性にも寄与					評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合：長野県総合5か年計画(整備推進箇所) ○緊急輸送路の路線指定：中野市緊急交通路 ○地域指定：豪雪地帯					評価	A
	効率性	○費用便益費(B/C)：1.2 ○事業期間：8年間 ○工法等比較検討：設計VEによるルート比較検討を実施					評価	A
	緊急性	○現道の危険性：交通事故48件(H28~R3)うち人身事故1件 ○代替道路：千曲川左岸の(国)292号の代替機能を担う ○道路環境改善：通行車両のすれ違い、歩行者や自転車の安全確保 ○現況の車道幅員、半径、勾配：現況車道幅員4.0m					評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有：事業説明会、地元区回覧等で地権者以外にも広く周知 ○地域の取り組み：中野飯山線バイパス整備促進対策委員会ほか期成同盟会から部長要望あり ○地域の合意形成：用地買収対象地権者から了解を得られている ○住民との協働：PIIによりルート検討を実施、地元区と共同で維持管理(草刈り)を実施 ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック:事後評価5-4(環境配慮、工法検討)					評価	A
	所管課の意見	沿線集落の重要な生活道路であるが、狭隘で見通しが悪く交通事故も発生しており、バイパス整備により、安全な交通を確保し、集落内の安全で安心な暮らしの向上を図る必要があることから、事業着手が妥当と判断する。			採択状況	総合評価		
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A			
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手			

位置図

標準横断面

平面図

状況写真

① 至中野市街

② 至中野市街

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景
 (一)中野飯山線は、中野市と飯山市の中心部を結ぶ幹線道路であり、平成14年の長野電鉄木島線廃線後は代替バス路線として通勤通学の重要な生活道路である。北陸新幹線飯山駅開業以降は、中野地域からの新幹線アクセス道路及び湯田中、志賀高原方面への観光道路として期待が高いが、人家連担の幅員狭小区間が続き、通行車両及び通行者等が錯綜し大変危険な状況のため、円滑な交通確保及び通行車両や通行者の安全確保が求められている。

②地域からの要望経緯及び地域の関わり
 平成11年よりPIIにより住民参画を行いながらルート検討(5回開催 参加者220人)。平成14年10月10日請願書の提出。平成25年度に検討ルートの一部(柳沢工区)事業開始。毎年同路線の期成同盟会が開催され、整備促進及び早期完成の要望がだされている。

③事業説明等の経緯
 平成23年7月11日 地元説明会、平成24年2月8日 地元説明会、平成24年2月14日 地元説明会。
 平成25年度以降柳沢工区の事業進捗状況説明会。

④他事業・プロジェクトとの整合、関連
 中野市都市計画区域マスタープラン

⑤地球温暖化への配慮
 自然環境・生活環境への影響と配慮
 既設堤防の利用により地形改変を少なくする。
 幅員狭小区間の解消により、燃費が向上しCO2排出量低減に寄与する。

⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮
 本事業により北信地域の交通の円滑化が図られ、地域間交流や観光振興等に寄与する。

⑦その他

事後・再評価からのフィードバック

事後評価:5-4(環境配慮、工法検討)
 冬期間工事ができない地域のため環境に合わせて工程検討する

事業代表地点の緯度経度
 北緯:N 36° 48' 15.5"
 東経:E 138° 21' 29.7"